

# 日本のコピー版ルルドに関する一考察

——長崎「本河内カトリック教会」を事例に

*A Study on the Japanese Lourdes: The Case of "Honkouchi Catholic Church" in Nagasaki*

羽生敦子\* [立教大学観光研究所・研究員]  
HANYU, Atsuko

\*白百合女子大学言語・文学センター 研究員

**Abstract:** There is a lot of contents for sightseeing in Nagasaki concerning the theme of the end of the Edo period, such as Dejima, Glover Garden, and Oura Catholic Church. What tourists expect would be European exoticism. Nagasaki Saruku, which is held from 2006, prepare several tourist walking courses whose theme is very various. In the 2020 New Year program, Saruku course was developed to the Urakami Story. You can walk around the atomic bomb-related area from Urakami Cathedral with a local volunteer guide. It is not only for enjoying the theme of peace, but also the theme of Urakami as a Christian village. Walking at Urakami area, you can find several Lourdes which are even unknown to the residents. The Lourdes reminds you the missionary of Paris Foreign Mission (MEP) settled in the end of Edo.

In 2018, the assets of Hidden Christian Sites in Nagasaki and Amakusa Region were registered as World Heritage Site. It can be read as a 260 years life history of the hidden Christians which ends at Oura Catholic Church, place of its discovery. However, it does not include assets related to Christians in the Urakami area. Oura Catholic Church in the Minamiyamate district, which symbolizes the exotic atmosphere of Nagasaki has become also a climax place in the World Heritage Site. In this paper, I forced on Urakami and unraveled the memory of that land, which was socially and culturally separated from Nagasaki City, analyzing from academic papers and literary works.

**Keywords:** コピー版ルルド (Japanese Lourdes), スピリチュアル (Spirituality), 長崎観光 (Nagasaki Tourism), ルルド祭り (Lourdes Festival)

I はじめに

II 日本の複製ルルドについて

III スピリチュアルか信仰か

1. パリ外国宣教会のフランス人神父

2. 「信徒発見」

IV ブログのコメント

## V 長崎のルルド

1. 観光的巡礼としての長崎ルルド
2. 善長谷教会のルルド
3. 本河内ルルドについて

## VI おわりに

### I—はじめに

2019年度よりフランスのルルド研究を開始し、<sup>1</sup>2019年の夏に現地調査を実施、その成果を「巡礼地から観光巡礼地に至る変遷の一過程について：ルルドを事例として」<sup>2</sup>としてまとめた。<sup>3</sup>2021年度までの3年間の計画であったが、<sup>4</sup>周知のとおりコロナウイルスという未曾有の社会的混乱があり、予定していた二度目の渡仏は困難となった。しかしながら文献調査をしていくうちに日本にも「ルルド」と呼ばれる外の祭壇があり、スピリチュアルに関心のある人にとって、とりわけ都内のルルドが「パワースポット」化していることが、ブログのテキストから読み取れた。ルルド、本稿ではコピー版ルルドと記述するが、コピー版は長崎(五島列島含む)地域に顕著に多いことが分かった。長崎のコピー版ルルドの先行研究として、関口浩子による①「聖母マリアのルルドと天草の模造ルルド群」崇城大学芸術学部紀要第6号、②「日本における模造ルルド発生考」崇城大学芸術学部紀要第7号、③「ルルドの聖洞窟模型の日本における展開—長崎大司教区の築造例を中心に—」崇城大学芸術学部紀要10号がある。①では天草の模造ルルドの特徴および築造までの経緯、②ではパリ外国宣教会の神父とルルドとの関連について、③においてはそれぞれのルルドの建設年、マリア像、ベルナデット像がつけられた工房、材質など詳細な調査結果が披瀝されている。芸術学部の研究者ということもあり、主に、彫像作品としての模造ルルド聖堂への関心が読み取れる。

一方、筆者の関心は「コピー版ルルドとは何か」「誰がどのように消費しているのか」であり、彫像そのものへの関心というより「場所」への関心である。2020年3月、2020年11月、2021年11年、2022年8月、2023年5月の5回の現地調査を実施した。(それぞれ3泊4日)。五島列島(福江島、久賀島、中通島)、長崎市、平戸市、天草市のコピー版ルルド<sup>5</sup>を確認したが、本稿では東京のルルドを概観しつつ、長崎市、とりわけ本河内カトリック教会と善長谷教会のルルドを事例に、コピー版ルルドとその地域性について検証したい。

### II—日本の複製ルルドについて

フランス語 Les Répliques de la Grotte de Lourdes と検索すると、Wikipediaの情報ではあるが、全世界に広がったコピー版ルルド情報が掲載されている。Japonにスクロールすると、東京カトリック教会(Cathédrale Saint-Marie カトリック教会関口教会に東京カトリック聖マリア大聖堂)の1件のみが掲載されている(図1)。<sup>6</sup>

東京カトリック教会は、日本のカトリックの総



図1 東京カテドラルのルルドの案内版(2019年10月筆者撮影)



図2 東京カテドラルのルルド(2019年10月筆者撮影)

本山であり、2019年のローマ法王来日の際もミサが行われた教会である。教会内には、日本語、英語、韓国語の聖書が置かれ、東京在住の外国人の信者にとっても重要な教会であることが窺える。その教会敷地奥に、聖母マリアが少女ベルナデットに「無原罪の御宿り Immaculée Conception」を告げたとされるフランスのルルドの泉の洞窟の岩場が再現されている(図2)。1911年に、パリ外国宣教会司祭で関口孤児院の所長であったH. A.W.ドマンジェル(Henri Anatole Wilhelm Demangelle, 1868-1929)神父の指導で築造されたコピー版ルルドである。1908年2月11日のルルドにおける聖母出現の五十周年記念日に合わせ、関口教会では「ルルド聖母出現五十周年記念祭」が催され、これを機会に模造ルルドを造ろうという機運が高まったとのことである(関根2013:63)。形状については、図1の説明書きにもあるように、マサビエルの洞窟と全く同じ寸法で造られている。媒介者であるベルナデットの存在はない。<sup>7</sup>

東京では、下北沢のカトリック世田谷教会の裏庭のルルド(図3・4)や目黒の碑文谷カトリック教



図3 世田谷カトリック教会のルルド(2019年11月筆者撮影)



図4 世田谷教会のルルド入口(2019年11月筆者撮影)

会(サレジオ教会)にもルルド(図5)などがある。前者の世田谷教会のルルドの洞窟は近くの学校のプール解体の折に排出されたコンクリートブロックを利用したそうである<sup>8</sup>。信徒との協力によって献堂されたルルドである。

インターネットで公開されているブログの書き込みによるとスピリチュアル愛好家のルルド巡礼(訪問・見学)が実施されている<sup>9</sup>。

前述したようにフランスのサイトでは東京カトリック教会のルルドが唯一のコピー版ルルドのように記載されていたが、日本最初のルルドはそれよりも古い1899(明治32)年に長崎・五島列島の福江島玉の浦の井持浦教会に設置されている。

「日本のルルド」とgoogle検索をかけると、まず、長崎県福江島の井持浦教会(井持浦ルルド水の聖母堂)がヒットする。画像検索には五島列島の数々のルルドが掲載されている。

ギガジンサイト<sup>10</sup>では、「教会に置いてあった冊子『井持浦ルルド巡礼地』」が掲載され(図6)、「五



図5 サレジオ教会のルルド(2023年4月筆者撮影)

島列島はルルドの島で、数多くのルルドが存在しているということでした」の一文が紹介されている。一方で、フランス語の検索でヒットした、「東京カトリック教会のルルド」の情報はヒットしない。

Google検索やYahoo検索など、人々が日常的に使用する検索エンジンでは、検索数が多いものが上位に掲載されることを踏まえると、宗教関連施設としての教会(およびルルド)よりも、観光施設としてのほうが上位に位置すると考えられる。つまり長崎のルルド情報はむしろ観光施設として検索されていることが推測される。

2018年世界遺産として「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として教会施設が登録されたことも影響を与えているだろう。



図6 ギガジンサイトに掲載されていた『井持浦ルルド巡礼記』

### III——スピリチュアルか信仰か

日本において、「ルルド」という音(シニフィアン)は必ずしも場所(都市名)を意味しない。むしろ、シニフィエされるものは、「奇蹟」とか「霊的な何か」である。パワースポットとしての要素が掻き立てられる。実際、会社名、占いの館に「ルルド」の名前がつけられている。また、カトリック教会やカトリック系の学園の外の祭壇としてのコピー版ルルドも多い。いずれにしても、教会の内陣や祭壇ほどの関心を掻き立てるものではない。「霊的な何か」と前述したが、日本のルルドは「聖霊 spirit」、つまり宗教的なものと言うよりも、spiritから派生する言葉ではあるが、片仮名表記することによって、キリスト教的な聖霊と一線を画する「何か」を感じ、自分自身の心を満たす主観的な「スピリチュアリティ」との相性が良いのではないだろうか。

スピリチュアリティの定義については研究分野によりさまざまであるが、それを愛好する人々は多く、現在では「スピ」と呼ばれる<sup>11</sup>。占星術愛好家にも近いが、奇跡などにも関心の高い人々である。スピが好む場所はパワースポットとして取り上げられる。日本の場合は神社仏閣が多いが、2023年8月号Hanako「特別編集 日本：開運の旅」では、東京カテドラル聖マリア大聖堂を取り上げている。世界的にみれば、セドナやナイアガラなど、卓越した自然風景の所在地などもある。

堀江(2019)は、日本で使われる「スピリチュアリティ」の特性として、①トランスパーソナル心理学②スピリチュアルケア③宗教社会学の分野と限定したうえで、

生活の中に潜んでいる、見えないつながり(超越的なもの、他者、自然、世界とのつながり)への気づきに関わるものが多い。いず

れの分野でも共通するのは、扱う対象や発するメッセージが特定の宗教色を持たない点である。(堀江2019:30)

と言う。

日本において、堀江が指摘するように、宗教色のないスピ、その対象として、コピー版ルルドは、とりわけ、観光研究においては、メタ宗教巡礼の事例としての価値がある。「聖水」<sup>12</sup>も重要なアイテムではあるが、ルルドの主役の一つは「マリア像」であることを考えると宗教的な側面も拭えない。カトリックに馴染みのない日本人はマリア像もまたスピの対象となりうるのか、あるいは、ベルナデットの像が設置されることによって、奇蹟譚としてのコンテンツが前景化し、スピの対象になっているのではないだろうか。

とは言え、現地調査からは、参詣者がスピなのか、宗教的、つまり宗教巡礼地としてのコピー版ルルド参りなのか外見からはわからない。堀江も大神神社を事例に、「結局、パワースポット訪問と「パワー」の享受は、先行する宗教的巡礼とどう異なるのか。参拝という行為自体からは、両者を外見的に区別できない」と言及する。しかし、新しさも指摘する。それは場所そのものの「パワー」の脱文脈化である。つまり、現地の文化を知らなくても、地域の集団に属さなくても、また宗教的儀礼に参加しなくても、場所のパワーだけを切り取って、個人的に享受することが可能だと考えられていると論じる。コピー版ルルドの消費と重なる。

### IV——ブログのコメント

IIで述べたように、「日本のルルド」と検索すると五島列島の井持浦ルルドの情報がヒットする。さまざまなコミュニティが展開されるSNSで「日本のルルド」があるかどうかを調べたところ、ミ

クシィmixi内で2009年から「日本のルルド」のレッドが立ち上がっていた。33のコメントが掲載されていた。一部を掲載する(絵文字と写真は削除)。

① 2009年9月24日

はじめまして

僕は長崎のルルドの泉の聖母マリアへ祈りを捧げてきました

僕の父の生まれた五島福江島にもルルドがあります

かくれきりしたんの哀しい歴史が残る土地ですが、それだけに過去の歴史から今の幸せがあることを深く感謝しています。僕はクリスチャンではありませんが、マリアさまには深いえにしがあるようです。。

いろいろと教えてください、どうぞよろしく願いいたします

② 9月25日13:21

ルルドは、カトリック教会に行けば結構ありますが、本当のルルドの洞窟に似ているのは、東京にある「東京カテドラル聖マリア大聖堂」(カトリック教会)。

③ 9月25日19:32

小夏さま

ありがとうございます

ぜひ伺いたく思います。

聖地には天につながる道が見えます

近日中にブログにアップしますね

④ 9月25日23:38

いつの日か、皆様が本物のルルドを訪れることが出来ますように。

関西にもあるとは思いますが、残念ながらおすすめとか、記憶に残るルルドはありません。

長崎市の本河内カトリック教会(通称、聖母の騎士)のルルドもいつかの台風で崩れたのを修復したのですが、静かです。

五島・福江市にある玉之浦町、井持浦カトリック教会のルルドも有名ですよ。

⑤ 9月26日00:26

五島列島、福江のルルドにシルバーウィークに行ってきました。

ゴールデンウィークにフランスのルルドに行ったばかりだったので感銘を受けました。お水もいただいてきました

⑥ 9月26日11:55

僕の学校は長崎本河内の聖母の騎士学園ですよ！！

学園のグラウンドの裏からルルド巡礼を毎週日曜日にやるのが日課でした。。

そうか。。台風でこわれたんですね。。

どうりで僕の記憶のなかにあるルルドのマリア様とはちょっと違ったかんじでした。。

写真は福江の堂崎天主堂です

教会もさることながら、天からの光が見えるようなこの土地にこの教会はあるのは

神様がここに教会を。。ということのように思えるような美しい光景でした

また五島にも行きたいです。。

みなさんの心のやすらぎや癒しを伝えていければいいですね。。

⑦ 9月26日12:00

大阪の寝屋川・香里園の聖母学院の正門を入った所の右手に、ルルドがあります。

聖母学院は、ベルナデッタがいた修道会のヌベール会が創設した学校です。

現在は、修道会は学校運営から手をひいたと聞きましたが、建物などはそのままだと思い

ます。

⑧ 9月26日15:25

名古屋でもありますよ。カトリック(主税町：ちからまち)教会((東片端：ひがしかたは)の近く)の裏にあります。昔は、たたみ敷の教会だったそうですが、今は改装されています。

⑨ 4月19日01:25

こんにちは。

土曜日に、函館在住のお友達に「メダイ」の祝別を御願した所～

数件の教会を調べてくれて... 函館元町教会で祝別をして頂きました。

カトリック教徒じゃなくても、快諾してくださったようです。

聖堂の中は当然の如く、撮影禁止だったようですが～

ルルドのマリア様の洞窟があったそうです。あまりの美しさに、お友達は感涙して震えが止まらなかったそうです。

私も、ぜひ今年は道内のルルドのマリア様にお会いしたいです。

函館元町教会 美しい教会の画像が載っています。

<http://www.sinkun.com/dounan/catholic.htm>

⑩ 5月17日12:08

ルルドのマリア様に会いたい。いつも願っていたのですが...

何と！地下鉄1本で行ける場所にいらっしゃいました。アッシジの聖フランチェスコ教会の裏庭に。

でも...お顔に蔦が絡み・土埃にまみれていました。

思わず素手でマリア様のお顔・身体を撫でて

抱きしめてしまいました。

本当の母親のようでした。

いつも着けている御守りブレスに、マリア様の慈愛の力を入れて頂きました。

この日の夜、お友達の息子さんへメダイ入りの御守りブレスを作りました。

札幌市内の方は、東豊線北12条駅下車。徒歩数分。

「北カトリック教会」で検索すると場所がわかると思います。

⑪ 5月17日12:27

くりたんたさん

素敵です 札幌にもあったんですね 今度、足を運んでみようと思います

⑫ 5月17日14:39

ままんさん

はい！まさか札幌市内にいらっしゃるとは天使幼稚園や天使病院の敷地にあります。

売店もあります。メダイや御絵・御像など沢山ありました

「北11条教会」という名称だと思います。

その際はぜひ、お花を捧げて下さい。

私も、またお花を持って会いに行きます。

⑬ 5月23日20:05

今日は「ペンテコステ」の記念日でしたね。

先週お会いした時のマリア様が...あまりお手入れされていないのか、ずっと気になって...

今日は、お顔と身体を拭いて百合・薔薇とキャンドルを捧げてお祈りして来ました。

先週の写真は、同じように晴れだったのにどれもモヤがかかったように哀しい雰囲気だったのが～

今日は周りも光り輝いて、マリア様のお姿もとても美しく見えました。

私のお母様、マリア様

⑭ 7月3日07:35

4番のかたへ

明石市の明石カトリック教会の敷地内に

ルルドのマリア様がありますよ！

⑮ 9月22日18:32

はじめまして。

今日、長崎のコルベ神父様が開いたルルドの動画を撮影してみました。

今のルルドの状況(雰囲気)と愛を感じてみてください。

そして、お祈りも・・・

<video src="9782543:d3ce3fbad7d9b369cd25f1195ff049a7">

⑯ 10月07日20:35

削除された動画

--ルルドの泉に向かう人々--- ///壺坂霊験記  
///

<http://ameblo.jp/move246/entry-10657061833.html>

⑰ 3月24日17:24

ルルドの泉という小学生向きの本をキリスト教書店のおばさまから頂いたのは10年くらい前のお話。本だけでも癒されました。

⑱ 4月15日08:08

はじめまして。病気の母親と一緒にルルドに行くのが夢でしたが、寝たきりに

昔は長崎の教会(浦上天主堂?)で買えましたが、数年前近くの教会の売店で聞いたら水だけでは今は販売出来ないとか^^ ;ルルドの水入りか切付きロザリオはめっちゃ高いし

ネットのバナーで数年前「今話題のルルドの水入り

ストラップ」とやらを見ましたが、教会のじゃないと本物かどうか・・・

教会主催のツアーに参加して水を汲みに行きたいんですが、問い合わせたら丁度終わったところでした。

でも今このページ拝見したら、凄く近い香里聖母にあったなんて。京都聖母に6年通ってましたが知りませんでした^^ ;くうさんに感謝

でも香里の卒業生じゃないから汲みに行くのは難しいですね^^ ;

⑲ 4月16日19:38

はじめまして。

五島列島に住んでおります、癒るりと申します。

私が住む下五島は、1日あれば島内一周できる小さな島です。

中心地から車で1時間もあればルルドの水を頂くことができます。

写真は明治32年(1899)に建設された日本最古のルルド・玉之浦町にある井持浦教会です。フランス人宣教師ペルー神父が教会の敷地で湧水を見つけ、信徒たちと共にルルドの泉を再現されました。

聖母像は本場ルルドの聖母像を求めて洞窟に収め、さらに本場の奇跡の泉から霊水を取り寄せ洞窟横の泉水に注ぎ入れたそうです。

私はクリスチャンではありませんが、愛あふれるマリア様にとっても癒されます。

⑳ 5月30日19:48

先日、5月29日(日)長崎の本河内ルルドでルルド祭りが行われる予定でしたが

天候不順のため、聖堂にての開催となりました・・・でも、ミサは素晴らしいモノとなりましたと、皆さん(信者さん等)が口をそろえて



言ってくれました。

㉑ 9月1日21:47

お晩です

青森県は弘前市在住のジョイ・フィールドと申します。

青森県にもルルドの泉を模した場所があります。

そこは、弘前市から十和田湖に向かう途中から平川市の山中、善光寺平に分け入った場所にあります。まあ、私の下手な説明よりも、こちらのブログがいいみたいです。

・青森の「ルルドの泉」!

<http://ameblo.jp/aomori1879/entry-10585969288.html>

㉒ 6月27日14:04

3年ほど前に明石の教会に行ってきました、洞窟とマリア様をみて、教会の中にも入って見ました、チューリップなどお花も咲いていました、心が休まりました、教えていただきありがとうございます。

かなり広範囲に「日本のルルド」が存在していることがわかる。書き込み側も、カトリック系学園の卒業生、おそらく信徒、スピ系の人(①「信徒ではありませんが」)、「ルルド」が在する地域のローカルと多様である。コメントからはメダイを持つことだけでは満たされず、神父からの祝福をメダイに与えることで、本物、つまり宗教的真正性が付与されたメダルを持つ満足感(⑩)、宗教的か否かは不明だが、洞窟にあるマリア像、あるいは光を浴びたマリア像に対しては、訪問者が期待する神秘性が投影されていること(⑥⑨⑬)、母親の治癒のためのルルドの水を求めていること(⑱)が垣間みられる。⑱は本来のルルド参りの目的に近い。

ベルナデットにふれたコメント(⑦)もあることからフランスのルルドを前提にこのスレッドが立ち上がっている感じをうける。五島列島の井持浦のルルドや長崎の本河内教会のルルドへのコメントからはフランスのルルドの代替えとしての日本のルルドが浮かび上がる。

つぎにアメブロに掲載された9starからのコメントを引用したい。<sup>13</sup>2011年7月26日に投稿されたものである。

こんにちは!

9star.jp みずたにです。

東京のパワースポットの中でも大好きな場所。

それが「東京カテドラル聖マリア大聖堂」

でもやっぱりー

聖堂ではなく、敷地の一番奥にある

「ルルドの洞窟」。(上記の写真です)

ここの前にはベンチもあるので

ポーターと座って時間を忘れてしまいます。

ちょっと変な人ですが・・・

フランスのルルドの泉で感じた気のエネルギーの感じと

同じではないものの似た種類の感じですよ。

是非、感じてみてください。

ここは祈る方々のための場なので邪魔にならないように気をつけてくださいねー

ここでは、「パワースポット」と明記され、「気のエネルギー」のような単語が現れ、宗教的な目的というよりもスピ的な消費が行われている。堀江が指摘した「宗教的儀礼に参加しなくても、場所のパワーだけを切り取って、個人的に享受することが可能だと考えられている(2019:30)」と重なる。対象のルルドは、東京カテドラル聖堂のルルドである。カテドラルの聖堂自体がパワースポットとしてスピから支持されていることも原因だろう。

# V——長崎のルルド

## 1. 観光的巡礼としての長崎ルルド

長崎では潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産としてユネスコに登録されている。2015年に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として申請し、イコモスから見直しを勧告され、2018年に、「長崎と天草地方の潜伏キリシタンの関連遺産」として登録されたという経緯をもつ。本来、長崎・天草の教会群というタイトルであったように、教会建築が資産としての中心的存在であった。それが「ザビエルに始まるキリスト教の布教から禁教まで260年間密かに宗教を守り続けたカクレキリシタンたちの歴史(生活史)であり、「信徒発見」(大浦天主堂)というクライマックスがハッピーエンドとして完結するストーリー」を構成する資産へと転換した。世界遺産のリストへ登録されることは、資産を国内法に基づいて適切な管理保護体制がとられることである。しかし、観光の場では資産は観光客を誘致するためのお墨付きの観光資源へと変容する。これまでも宗教施設であること

を、喚起させるための措置が様々とられている。例えば、2010年版(2017年改訂)五島市世界遺産登録推進協議会は「五島市教会巡りハンドブック」を作成し、教会でのマナーを観光客に周知させている。<sup>14</sup>

本稿で対象にする長崎市のコピー版ルルドは、本河内教会(ホンコウチ)、善長谷(ゼンチョダニ)のものである。世界遺産の括りからは外れた教会である。しかしながら、大浦天主堂のプチジャン神父(Bernard Petitjean 1829-1884、「信徒発見」に立ち会った)と同様にパリ外国宣教会から派遣された神父によって献堂された教会であり、かつてのカクレキリシタン(潜伏キリシタン)村の教会である。長崎のルルドとパリ外国宣教会の宣教師の足跡が接合することを示す事例でもある。

コピー版ルルドの多くは、教会の野外Ex-Vote的(祭壇の壁などに掲げられる奉納品)な存在ではあるが、宗教施設の一環であり、節度を持った行為が要求されるが、同様に観光資源としての価値は高い。

長崎市では、長崎市公式観光サイトの観光イベント「長崎さるく」のプログラムとして「長崎のルルド」巡礼が実施されている(図7)。<sup>15</sup>

**15. 消えた長崎の教会跡巡り**  
祭教令により破壊され歴史に埋もれた教会の跡を一緒に巡っていきましょう。  
お土産付  
方 NPO法人長崎の風巡礼ガイド  
日 1/24(日) 10:00~12:00  
定 15名(最少3名)  
集 出島表門橋公園  
解 サントドミンゴ教会跡資料館

**16. 日本26聖人の丘からサンタ・マリアへ**  
日本人だけでなく多くの外国人が殉教した西坂からキリシタン文化の歴史を巡っていきましょう。  
お土産付  
方 NPO法人長崎の風巡礼ガイド  
日 2/5(金) 10:00~12:00  
定 各15名(最少3名)  
集 JR長崎駅かもめ広場  
解 長崎歴史文化博物館(山のサンタ・マリア教会堂跡)

**17. 長崎浦上ヒストリーウォーク**  
①(前編) 平和公園から聖クララ教会堂跡  
②(後編) 本原教会からこうらんば墓地  
どんな状況のもとでも信仰を守り通したキリシタンの里「浦上」を訪ねてみましょう!  
お土産付  
方 NPO法人長崎の風巡礼ガイド  
日 ①2/24(水) ②3/24(水)  
各10:00~12:00  
定 各15名(最少3名)  
集 ①平和祈念像前 ②本原教会  
解 ①聖クララ教会堂跡(大橋) ②こうらんば墓地

**18. 長崎のルルドへ!**  
①本河内教会のルルドと長崎街道  
②善長谷教会のルルドと深堀武家屋敷  
ルルドとは、ピレネー山脈の山麓、南フランスの町の名前です。日本では「奇跡の泉」の場所を指しています。長崎市内のルルドを訪ねてみましょう!  
方 NPO法人長崎の風巡礼ガイド  
日 ①3/7(日) 10:00~12:00 ②3/28(日) 10:00~13:00  
定 各15名(最少3名)  
集 ①中川八幡神社鳥居  
解 ①深堀地域センター(錦治町バス停下車) ②蛸茶屋 ③深堀バス停  
備 ①蛸茶屋 ②深堀バス停 ③健脚コース  
お土産付

**19. 犯科帳さるく 浦上村「潜伏キリシタン墓地6ヶ所」**  
巡礼さるく~登立墓地~<墓碑に見る浦上崩れ>  
キリシタンの里、本原郷の登立墓地に眠る信仰の証人を巡り  
方 NPO法人長崎の風巡礼ガイド  
日 1/30(土) 10:00~12:15  
定 各20名(最少5名)  
集 登立口バス停  
解 登立口バス停→登立墓地 登立墓地(バス停間3分)

図7 長崎さるく2021年新春号より

長崎さるく2021年春号では、「長崎のルルドへ！」のタイトルの元、本河内教会のルルドと善長谷ルルドを訪問先とした(観光)巡礼が掲載されている。しかし、予定はされていたものの、2021年はコロナ禍ということで、このイベントは中止となった。筆者はどのような人たちがこのコースに参加するのかに興味を抱き、2021年11月に主催者「長崎の風」にこれまでの参加者に関するついでメールで問い合わせた。参加者は長崎の人、つまりローカルが自分の知らない長崎の場所や歴史を知るために参加しているということであった。とくにルルドに対するスピ的な関心はないようである。また、2022年8月に、JR長崎駅の仮設観光案内所(改札付近)で、善長谷ルルドの行き方を尋ねた際にも、スタッフがふたりいたが、一人は、全くその場所を知らなかった。もう一人のスタッフが「あ、善長谷教会って大籠町の教会ですね？」と理解し、長崎駅からの案内をネット検索しプリントアウトし手渡してくれた。町名が聞こえたとき、最初に、善長谷と言ってもわからなかったもう一人のスタッフも「あ、」と納得したようであった。観光案内所ではあまり案内することのない場所のようである。「ルルドと言えば、本河内教会のルルドですね」との応答があり、そのうえで、「お参りになるのは信者さんじゃないでしょうか」との感想であった。2023年の長崎さるくのプログラムでは、「善長谷教会のルルドと深堀武家屋敷(長崎の風主催)2023年2月19日(日) 時間(所要時間)10:00~13:00(3時間)料金¥500/大人(ワンコインご用意ください)料金に含まれるもの、ガイド料、保険料 最少申込人数 1名、」(図8)、「コルベ神父の足跡と本河内ルルド3月26日(図9)との掲載があり、「ルルド巡礼」が再開されている。長崎さるくでは、長崎の観光のひとつとしてルルド巡礼が提供されている。<sup>16</sup>

MENU




**長崎さるく ~善長谷教会のルルドと深堀武家屋敷~**

料金 ¥500/大人 (ワンコインご用意ください)

図8 「長崎さるく」 善長谷教会のルルド

MENU



**長崎さるく ~コルベ神父の足跡と本河内ルルド~**

設定日 2023年3月26日(日)  
料金 ¥500/大人 (ワンコインご用意ください)

図9 「長崎さるく」 本河内教会ルルド



図10 善長谷教会のルルドのマリア像とベルナデット像 (2022年8月筆者撮影)



図11 善長谷教会の赤く塗られたベンチ(2022年8月筆者撮影)

## 2. 善長谷教会のルルド

筆者は2022年8月24日に善長谷教会を訪れた(図10・11)。「さるく」への参加ではなく個人的な来訪である。

1895年献堂の教会である。長崎市内からは一日数本のバスのみ、レンタカー、あるいはタクシーで向かうことが推奨される。教会は海を見下ろす山深い場所に在し、教会の横に「ルルド」とかかれた看板が見える。コピー版ルルドは、フランス・ルルドのマリア出現百周年を記念して1957年に設置された。(長崎駅付近の)中町小教区の巡回教会だったことから、中町教会の古川神父と信徒、延べ3700人の奉仕により完成した。長崎市が運営するウェブサイト「ナガジ」<sup>17</sup>の「長崎のルルド巡礼」では、「作家遠藤周作が愛した善長谷ルルド」と紹介されている。『女の一生』第一部の主人公キクの墓として登場する教会である。(表向きキクは仏教徒として浦上の馬込郷に埋葬されている)教会の正面から見て右側に「ルルド」と書かれた看板があり、竹やぶで覆われた坂道を下ると、開墾されたと思われる平地があり、祭壇を見つけることができる。図11が示すようにベンチは赤く塗られ、マリア像もベルナデット像の色褪せもなく日常的に手入れされていることが窺える。また、教会内の記帳に目を落とすと、「天国に一番近い教

会に来たことがうれしい」との感想を見つけることが出来た。一方でルルドへの言及は見つけられなかった。

## 3. 本河内ルルドについて

(1) コルベ神父(Maksymilian Maria Kolbe, 1894-1941)とルルド

長崎市の彦山の麓の本河内のコンベンツアル聖フランシスコ修道会は、1930年、ポーランドから長崎にきたコルベ神父が、大浦から移って1931年に開いた修道会である。コルベ神父は遠藤周作『女の一生』の第一部のなかで、印刷作業を昼夜続ける修道士として、第二部では帰国間際に主人公サチ子と会話する姿で登場する(遠藤1986: 92)<sup>18</sup>。ルルドはコルベ神父の帰国後、1932年に開設された<sup>20</sup>。神父自身はのちにアウシュビッツへと送還され、あるユダヤ人の身代わりとなって1936年に餓死刑を処される。その後1971年に列福、1982年に列聖され、聖人となった。

筆者は2020年3月と2023年5月に本河内ルルドを調査したがその際に見つけた説明版の一部を抜粋し掲載する。

### 【1932(昭和7)年5月、コルベ神父は聖母の騎士修道院にルルドを開いた】

コルベ神父は、ポーランド国を出て東洋へ向かう旅の途中、フランスのルルドへ参詣し、その時、東洋にもマリアさまのルルドを作ることを決心しました。

コルベ神父は、聖母の騎士修道院の裏山に最適な場所を見つけ、人々の幸福を願って、この場所にルルドを作りました。そしてコルベ神父は毎日ここへ来て、平和を祈っていました。マリアさまのお恵みの水は、常に流れ出ています。



図12 本河内ルルドの場所 (C)

[https://oratio.jp/p\\_burari/hongochi-korube](https://oratio.jp/p_burari/hongochi-korube) から転載(2023年8月10日閲覧)

フランス・ルルドへ参詣したことが説明されているが、神父自身の奇跡体験もあったようである。<sup>21</sup>

### (2)本河内ルルドの概要について

新長崎街道から長崎特有の坂道を上った彦山の麓、聖母の騎士高等学校の敷地内にカトリック本河内教会がある(図12)。コピー版ルルドはそこから、さらに7、8分程度登ったところを開拓した場所にある。途中に5つのロザリオのレリーフがあり、それぞれに小さな祭壇がある。登った先の敷地にはマサビエルの洞窟を彷彿させる岩の斜面があり、前方に祭壇が設置されている。祭壇に向かって10人がゆらに座れるようなベンチが前方に5台、後方に2台用意されている。100人程度のミサをあげられる大きさである(図13)。

斜面に作られた洞窟的背景には聖母マリアとベルナデットが設置され、水を汲むための柄杓もある。

### (3)永井隆と本河内教会ルルド

永井隆(1908-51)は、長崎の原爆被害の象徴的人物である。とりわけ、「長崎の鐘」の作者として知られる。2020年前期のNHKの連続テレビ小説

「エール」では、吉岡秀隆が永井役を演じ、戦後80年近くたち再び脚光を得た人物である。放射線科の医師であり白血病を患った上、被爆し、妻をも失いながら、被爆者のために奉仕した。かれが最晩年を過ごした場所は「如己堂」と名づけられ、観光スポットのひとつとなっている。

1933年にカトリックに改宗した彼はコルベ神父の主治医でもあった。<sup>22</sup> 永井もまた本河内教会ルルドの水の奇蹟の恩恵を受けた。ルルドの案内板で紹介される。



図13 本河内教会ルルド(2023年5月筆者撮影)

## 【永井隆博士は、このルルドの水で奇跡を受けた】

聖コルベが開いたルルドの泉は、これまで多くの恵みや奇跡を起こしています。中でも有名な恵みが、永井隆博士(長崎医科大学教授で、原爆を被爆した医師)の体験です。

永井隆博士は、原子爆弾で首の部分を怪我しました。その後、傷は化膿し、エソという病気になるため、原爆の丘で友人の外科教授に手術してもらいましたが治りません。博士は苦しんでいた時、聖母の騎士のルルドの水をいただいて快癒しました。永井博士は、「マリアさまの恵みが、現実に、私にも与えられた」と、その喜びを手記に書いています。

### (4)本河内ルルドに付与されるものとは

本河内ルルドは、マリア像とベルナデット像が語りかける「マリア出現」の物語と「コルベ神父のルルド案内」で見た通り、パリ外国人宣教会のコルベ神父と永井隆博士の2人の語りである。それは宗教的な語りというよりも、むしろ戦争と原爆の悲劇を伝える語りであり、演出であろう。戦争の悲劇を伝える場としてのルルドである。ここに観光者を受け入れるべき理由を見つけることができる。一方で、長崎のカトリック教会の歴史から、次のような一文を見つけた。

1959年6月5日

「長崎本河内聖母の騎士教会の境内にあるルルドに対し、ローマ聖庁から授けられた恩典によって、参詣するものに讀宥<sup>23</sup>が与えられることになった。」

讀宥とは免罪符のことである。つまり公式な巡礼地としてローマから認定を受けたのである。

### (5)ルルド祭とロザリオ祭

フランスのルルドでは8月15日の「聖母被昇天」の日に Procession(プロセッション)が開催される。「ロウソク行列」である(図14・15)。ルルド聖域内で働くすべての人はもちろん、パロワス(教会区)ごとの行列が行われる。車いすや担架に乗って参加する信者はもちろんのこと、鍋や調理用具と抱えて参加する信者、つまり厨房で働く人々たちの姿やかれらに奉仕するオスピタリエの姿が印象的である。

日本のコピー版ルルドにおいて、プロセッションは実施されていないようだが、本河内教会では、5月の最終日曜日には「ルルド祭」、10月の最終日曜日には「ロザリオ祭」が開催されている(図16)。「ルルド祭」は日本のコピー版ルルドの特質のひとつのようである。<sup>24</sup> コロナで中断していた本河内教会ルルド祭だが、2023年5月28日に3年ぶりに開催された。コロナが完全に終息したとは言えないこともあり、本河内教会のサイト等で開催予告はなかった。<sup>25</sup> 筆者は、直接電話をすることでその開催



図14 フランス・ルルドの「ろうそく行列」(2019年8月筆者撮影)



図15 フランス・ルルドのマサビエルの洞(2019年8月筆者撮影)



図16 ルルドまつり(2023年5月筆者撮影)

を知り参加するに至った。以下はその報告である。

教会内でのミサのあと、ロザリオ行列が行われた。参加者(巡礼者)はロザリオを唱えながらルルドまでの坂を登る。到着するまでには、5つのロザリオ玄義レリーフがあり、それぞれのレリーフ前でミサをあげ、祈りを捧げる。3人の神父の外に、聖母の騎士高等学校の男子学生の二人も修道服を着て助手の役目を担っていた(図17)。整備されているうえ、勾配もきついわけではないが、高齢者にはそれなりの覚悟がある坂道である。山口神父も、それをわかっていて、「みんながんばりよるな〜」と長崎なまりで声掛けしている。初夏<sup>26</sup>を迎え、体調管理のための水分補給として、本河内教会の信徒が、ペットボトルの水を準備してくださっていた。「本河内教会ルルドの水」である(図18)。本河内教会のルルドにはマリア像とベルナデット像が設置されてい



図17 神父を補助する男子高校生とレリーフ前のミサ(2023年5月筆者撮影)



図18 本河内ルルド教会の水「聖コルベが開いたルルドの水」  
(2023年5月筆者撮影)



図20 「またあいましょう」(2023年5月筆者撮影)



図19 洞の前のミサ(2023年9月筆者撮影)

る、洞(山肌)からは飲料可の湧水がある。すでにルルドの水が入ったペットボトルが配布されたが、足りない人のためにとということで、空のペットボトル(シールつきの)が200近く用意され、「ご自由に汲んでいってください」との声掛けがあった。一息ついたのちに、ミサが挙げられた(図19)。参加者たちの笑顔が印象的である。帰り道、登ってきた坂を下ると「また会いましょう」のパネルが準備されていた(図20)。

## VI—おわりに

観光者にとって、コピー版ルルドは宗教施設という場ではあるものの、教義や聖書を必要としない、より自由な空間となっているのではないか。観光者はそこに求めるのは神秘性、スピリチュアルななにかを感じたいのだ。コピー版ルルドとはいえ、本河内教会のように、山を切り開いた場所、



湧水, さらには「マリア」あるいは「ベルナデット」という存在(模造), あるいは, そのストーリーは, 観光者にとって十分に「神秘的」であり, 非日常体験をもたらす場所となっている。教会の御堂のキリスト, あるいは十字架は宗教的記号として「キリスト教」を前景化させる。一方で, 外に設置されたマリア像, ベルナデット像は, 仏像のもつような彫刻的, 芸術的側面はないが, (山の切り崩しという背景を含め)全体で, 「奇跡」の物語を再現させる。受け入れ側(教会施設)の一例ではあるが, 「ルルド祭」のミサでは, 神父が(とりわけウクライナ戦争を念頭に)「とにかく祈りましょう, 私たちが今でいることは祈ることです」と繰り返し, 最後には, 「次回10月のロザリオ祭には家族, 友人を誘って, 教会に来てください, 信者以外でも大歓迎です」と声を大にしていた。「祈り」とい

う行為はユニバーサルな行為であり, スピ的な巡礼であっても問題はないということなのだろうか。

本稿では本河内教会ルルドのみを事例にしたもので一般化はできないが, すくなくとも, 長崎では地域性: 「潜伏キリシタン, 原爆の歴史」が色濃くコピー版ルルドに反映されていることが明らかになった。本河内ルルドや善長谷教会のルルドがスピ消費をされている書き込みはこれまでの調査では見つかっていない。また, 今回引用したブログ等のコメントも2009年から2011年に投稿されたものであり, スピ消費の減少が予想される。さらにコロナ期以降, 書き込みが減少しているようだ。

#### [付記]

この研究はJSPS科研費19K12588の助成をうけたものです。

#### 注

- 1 JSPS 科研費19K12588「複合現実体験としての聖地巡礼: ルルドをはじめとする19世紀西欧における虚実の融合」  
<https://fusui-powerspot.org/s/6221.html> 2023年8月23日閲覧
- 2 白百合女子大学言語・文学研究センター 言語・文学研究論集(20)37-55.2020年3月  
<https://paheona.amebaownd.com/posts/1822928/> 2023年8月23日閲覧
- 3 「観光地ルルドにおけるホスピタリティに関する試論  
白百合女子大学言語・文学研究センター 言語・文学研究論集(19)41-58.2019年3月」  
<https://bunjin.blog.ss-blog.jp/2013-01-03> 2023年7月30日閲覧
- 4 科研費が2023年度末まで延長された。
- 5 井持浦教会, 玉之浦教会, 浜脇教会, 楠原教会(ファティマ), 堂島教会, 水の浦教会, 本河内, 本原教会, 出津教会, 根獅子のルルド, 山田教会(生月島), 紐差カトリック教会(ファティマ), 平戸ザビエル教会, 大野教会, 頭ヶ島教会, 鯛の浦教会, 米山教会, 猪の浦カトリック, 曾根教会, 中の浦教会, 聖フランシスコ病院内, 小峰のルルド, 天草: 崎津教会, 大江天主堂, 本渡教会, 長崎(伊王島): 馬込教会(無原罪のマリア像), 神の島教会。
- 6 フランス・ルルド市の聖域の関与は今のところ不明である。
- 7 たしかに, マサビエルの洞にはベルナデット像はない。
- 8 1956年にフランスからルルドのためのマリア像が届く。白百合女子大学で宗教学を担当された佐久間彪神父は1970年から2003年まで世田谷教会の神父をされていた。ルルドの祭壇は白百合女子大から奇進されたものようである。女子パウロ会 [https://www.pauline.or.jp/visitingchurches/200512\\_setagaya.php](https://www.pauline.or.jp/visitingchurches/200512_setagaya.php) 2023年7月30日閲覧。
- 9 「パワースポットになってみたいですよ」との記述あり。風水・パワースポットのサイトでも検索可能  
[https://gigazine.net/news/20111017\\_lourdes\\_japan/](https://gigazine.net/news/20111017_lourdes_japan/) 2023年8月23日閲覧
- 10 ギガジンネット <https://ameblo.jp/9starstyle/entry-10964879734.html> 2024年1月6日閲覧
- 11 (「スピリチュアリティ」とは日本語では「霊的な」とか「霊性」とか呼ばれていた現象で, その能力を持つ人は普通, 霊能者と呼ばれていた。その現象の愛好者をよぶ呼称は特になかったのではないかと思う)堀江(2019)→筆者の周辺では「スピ」と呼ばれているようだ。
- 12 フランスのルルドのマサビエルの洞で湧き出た水によって, ひとびとの病気が一瞬で治り「聖水」として認知されるようになった→最大の奇蹟事象である
- 13 [https://www.saruku.info/wpcontent/uploads/2020/11/2021\\_gakusaruku\\_newyear.pdf](https://www.saruku.info/wpcontent/uploads/2020/11/2021_gakusaruku_newyear.pdf) 日本語, 2021年4月9日閲覧
- 14 教会のサイトでは, <お願い>教会は信者の皆さんにとって大切な祈りの場です。見学の際は教会でのマナーをよく守り, お互いが気持ちよく過ごせるように心がけましょう。
- 15 長崎国際観光コンベンション協会, NPO法人長崎の風, 出島 nagasaki, GLOVER GARDENがそれぞれのさるくコースを運営している。  
<https://saruku.nagasaki-visit.or.jp/course/page/4/> 2023年8月23日閲覧

- 17 ナガジン <http://www.city.nagasaki.lg.jp/nagazine/hakken08036/index1.html> 2023年9月19日閲覧
- 18 月刊誌「聖母の騎士」は2021年4月で1000号を発行している。
- 19 サチ子に「人、その友のために死す。これより大きなる愛はなし」と告げる。来日してから一貫して通した信念である。
- 20 長崎旅ネット <https://www.nagasaki-tabinet.com/junrei/60441> 2023年8月30日閲覧
- 21 1914年4月6日の母への手紙  
「手術が必要なほどの右手の指の怪我だったが、先輩からもらったルルドの聖水のおかげでその翌日には回復した」  
Mission de l'Immaculée <http://www.immaculee.org/page.php?id=60> 2023年8月20日閲覧
- 22 2014年聖母の騎士学園同窓会会報によると、永井博士はコルベ神父の主治医だったことが明らかにされている。
- 23 下五島地区年表 <http://frsimoguchi.web.fc2.com/hama/nenpyo4.html> 2023年9月22日閲覧。
- 24 大分県の野津教会では、毎年5月の第2日曜日に「ルルド祭」が開催されている。
- 25 お告げのマリア修道会の召命促進会のTwitter(現X)では告知があったようである。  
[https://twitter.com/voca\\_otsu325status/1652631801167491075?s=20](https://twitter.com/voca_otsu325status/1652631801167491075?s=20) 2023年7月10日閲覧
- 26 天草の大江天主堂のガルニエ神父(1860-1941, 1985年来日)の天草弁の日本語は、『五足の靴』(与謝野鉄幹, 木下柰太郎, 北原白秋, 平野万里, 吉井勇の1907年の九州旅. 明治生まれの若者の青春の旅が描かれる)で紹介されているが、長崎のフランス人宣教師たちもまた、日本語というより長崎弁で語りかけていたのだろうかと思わせる一場面であった。
- 27 スピは「現地文化を知らなくても、地域の集団に属さなくても、また宗教的儀礼に参加しなくても、場所のパワーだけを切り取って、個人的に享受することが可能」だとすれば、本河内の例は、当てはまらないのではないかと。

## 文献

- ❖ 遠藤周作(2019[1986])『女の一生 一部・キクの場合』, 東京:新潮文庫
- ❖ \_\_\_\_\_.『女の一生 二部・サチ子の場合』, 東京:新潮文庫
- ❖ 関根浩子(2012)「聖母マリアのルルドと天草の模造ルルド群」  
崇城大学芸術学部第6号, pp.73-87.
- ❖ \_\_\_\_\_.(2013)「日本における模造ルルド発生考」崇城大学芸術学部第7号 pp.49-73.
- ❖ \_\_\_\_\_.(2016)「ルルドの聖洞窟模型の日本における展開——長崎大司教区の築造例を中心に——」, 崇城大学芸術学部紀要第10号, pp.3-33.
- ❖ 羽生敦子(2019)「コピー版ルルドの一考察——長崎を事例にして」, 第35回日本観光研究学会全国大会, pp.353-357.
- ❖ \_\_\_\_\_.(2022)「観光都市長崎から周縁化する「浦上」について」, 立教大学観光学部(24) pp.98-113.
- ❖ 堀江宗正(2019)『ポップ・スピリチュアリティ メディア化された宗教性』岩波書店.
- ❖ 英彦の泉 聖母の騎士学園同窓会会報 2014年8月25日号  
Hanako「神社とお寺, そして聖地へ 日本・開運の旅」2023年8月20日号 マガジンハウス